

一物の見方、考え方— 経営に生かす仏教哲学

青木伸雄

1. まえがき

最近のメディアの中心の話題は、国内外を問わず自己中心的な物の見方、考え方による思考が蔓延している気がしてならない。

例えば、隣国中国の我が国の尖閣諸島に対する領有権の主張の問題も、自民族中心主義、いわゆるエスノセントリズムの代名詞といわれる中華思想がその底流に存在する、それは漢民族が古くからもち続けた自民族中心の思想である。

異民族を卑しむ立場から、華夷思想ともいわれる考え方で、春秋戦国時代（前770～前221年）以降は礼教文化による天子を頂点とする国家体制を最上のものと考え、夷は道からはづれた禽獣（思義や道理を知らない人をののしってという言葉で畜生を意味する）に等しいものとし、異民族に対処した思想で、基本的にこの思想は、現在まで続いている。

北朝鮮も、自民族の繁栄以外は二の次で「他人くたばれ我れ繁盛」の物の見方、考え方である。

我が国でも、環太平洋経済連携協定（TPP）の参加について農業関係者の反対論は、米に対する関税が約800%で保護されている現状が、関税の原則全面撤廃で壊滅的な打撃をうけるとし、消費者不在の自己中心的な反対論である。

日本農業は、環太平洋経済連携協定（TPP）参加の如何にかかわらず農業改革は不可欠であり、耕作放棄地のない農地市場が機能するように参入規制を撤廃することだと思考する。

減反をして、自給率向上とは全くナンセンスである。作る喜び、増収の出来ない市場には若者は参入しない。すでに11カ国（カナダ、アメリカ、メキシコ、ペルー、チリ、ベトナム、ゴルネイ、オーストラリ

著者：広島大学生物生産学部非常勤講師

元近畿大学産業理工学部客員教授

日本禅画家協会名誉理事

中国少林書画院名誉教授

法号位 法印 禅画位 奥伝

青木伸雄

釋 禪 禪（野風生）

雅号 樹泉

ア、マレーシア、シンガポール、ニュージーランド）が参加、この他にタイ、フィリピンが参加を表明、我が国は世界の動勢、流れに乗りおくれようとしている。

ボーダレスワールド、いわゆる国境の無い経済活動の高度情報技術化社会の動きや流れにとり残こされないために、真剣に英智を集めて環太平洋経済連携協定（TPP）に参加、村八分の仲間はずれだけはさけたいものである。

「四劫」と「五濁」で、人間の生き方を学び、「菩薩道と四弘誓願」で、すべての人々との共存を学び、「技術革新と教育」で、変化を読み、変化に対応する教育を実施し、高度情報技術化社会、いわゆるIT機器等の農業に導入、農地市場の効率的利用をはかるべきだと思考し、以下述べることにする。

2. 四劫と五濁を考える

仏教の教えのなかの世界観について述べると、一般に世界とは、宇宙の中の一区域であり、釈迦の教化する領域をさし、一説には「世」は過去、現在、未来の三世で、「界」は東西南北、上下をさし、「世界」とは、すなわち衆生が住む時間、空間を意味する。

この世界を大きく四つに分けた考え方が四劫である。それは世界の成立から、破滅に至る物の見方、考え方による分類で、次の如く分け考えられている。

- 1) 成劫（世界が成立する期間をさす。）
- 2) 住劫（成立した世界が持続する期間をさす。）
- 3) 壊劫（世界が壊滅するに至る期間をいう。）
- 4) 空劫（次の世界が成立するまで、何もない期間。）

劫は、梵語のカルパ（Kalpa）で劫波ともいわれ、長い時間の単位で、多く宇宙の生滅などについていわれ、未来永劫などの劫をさす言葉である。

この仏教の世界観のなかの「住劫」に、五濁が存在する、いわゆる衆生が煩惱により、さまざまな罪を犯すのである。

その「住劫」に起る悪るい現象とは、「五濁」いわゆる五つのにごりであり

- 1) 劫濁（飢饉、悪疫、戦争などの時代の汚れのこと。）
- 2) 衆生濁（心身が衰える苦るしみが増すこと。）
- 3) 煩惱濁（愛欲等が盛んで争いごとが多くなること。）
- 4) 見濁（誤った思想や見解がはびこること。）
- 5) 命濁（寿命が短命となり、10歳となること。）

が説かれている。

四つの四劫という世界観、いわゆる衆生、人間の住